

白山周辺におけるニューナイスズメの繁殖期の分布と生息環境

上 馬 康 生 石川県白山自然保護センター
田 代 憲 次 日本野鳥の会岐阜県支部

DISTRIBUTION AND HABITAT IN THE BREEDING SEASON OF CINNAMON SPARROW (*PASSER RUTILANS*) IN MT. HAKUSAN

Yasuo UEUMA, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*
Kenji TASHIRO, *Gifu-ken Chapter, Wild Bird Society of Japan*

はじめに

ニューナイスズメは、本州中部以北の山地の林や北海道の林で繁殖し、秋から冬には関東以西の温暖な地方の農耕地や川原に群れで見られる。繁殖の確認されているところは、北海道では内陸地方だけでなく海岸沿いの平野部にもあるが、本州では主として日本海側の標高の高い地方であり、かなり局地的な繁殖鳥である(日本野鳥の会 1980)。白山周辺では、岐阜県大野郡白川村大白川ダム付近で1972年に繁殖の確認がなされている(伊藤他 1972)。石川県では、今まで春秋に観察例が少数あり旅鳥と考えられていた(熊野・木村 1970, 石川県環境部自然保護課 1990)。ところが1991年6月に白峰村桑島で繁殖が確認された(上馬 1991)。またこれ以外にも近年、繁殖期間中と考えられる時期の記録がいくつか明らかとなったので、これを整理すると共に繁殖期の生息環境について若干の考察をくわえた。

繁殖の状況を知らせていただいた白峰村桑島在住の山口一男氏、記録を教えていただいた日本野鳥の会石川支部の橘映州氏・中村正博氏・竹田伸一氏、白山自然保護センターの林哲氏に感謝します。

調査地域と調査方法

調査地域は石川県の石川郡内、岐阜県では大野郡白川村・荘川村、郡上郡白鳥町・高鷲村の各町村内である。この地域は、手取川、長良川、庄川など白山(2702m)に源を發する川の上流域にあたり、大部分が山地で、植生はブナ、ミズナラ等の落葉広葉樹林の占める割合が多い。また山間部の川沿いの一部に耕作地や集落が点在している。

気象は、金沢地方気象台と岐阜地方気象台の資料及び山岸(1991)によると、年平均気温は白峰11.6℃、鳩谷10.5℃、年降水量は約2500~4000mm(平均は白峰3136.9mm、鳩谷2399mm)で、特に積雪量が多く、積雪日数の平均は白峰112日、鳩谷115日で12月から4月までと積雪期間が長いのが特徴である。

記録の収集は、筆者らの記録と野鳥の会会員からの聞き取りによった。考察に用いた記録は、羽田・熊谷(1972)の報告から4月から7月が繁殖期と考えられるので、この期間の記録で、繁殖の確認できているかまたはその可能性の高いと考えられるもののみとした。すなわち、この時期の記録であっても、移動中の群や営巣場所から離れていることが考えられる家族群など、発見された場所での繁殖の疑わしい記録は除いた。なお両県とも調査地域以外での繁殖の記録は知られていない。

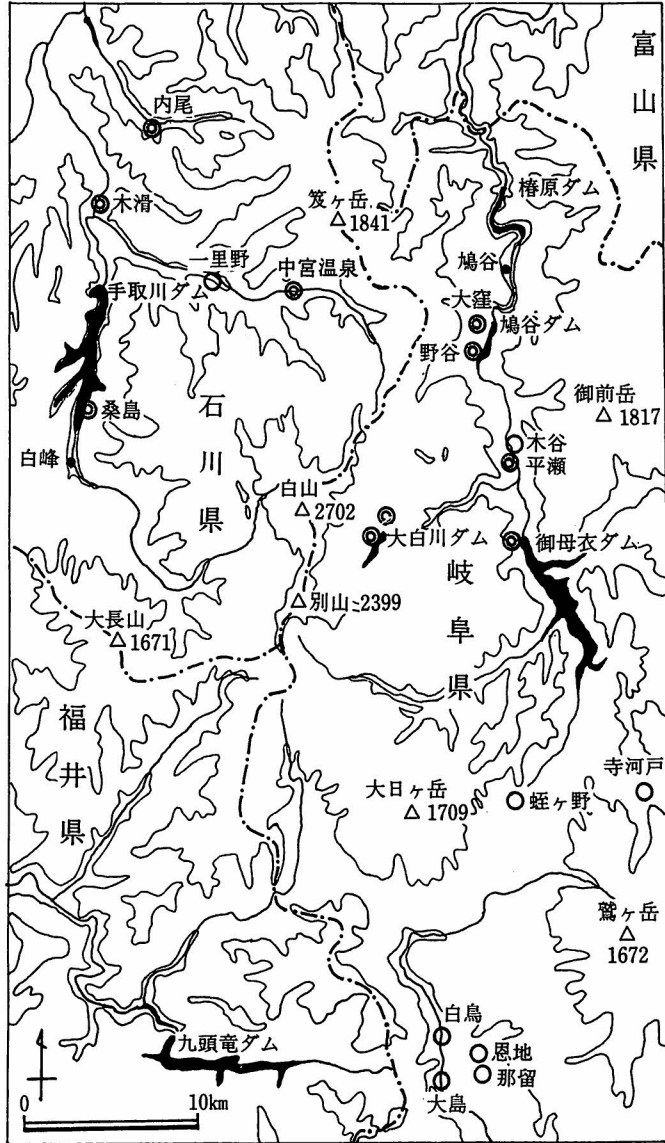


図1 白山周辺におけるニューナイスズメの記録場所
 ●は繁殖地及びその可能性の高い場所, ○はその他の場所
 等高線は500m・1000m・2000mを表わす

上馬・田代：白山周辺におけるニューナイスズメの繁殖期の分布と生息環境

表-1 白山周辺におけるニューナイスズメの記録

No	場 所	年月日	数 (内訳)	主要行動	環境	標高及び水域からの距離m	観察者
①	石・河内村内尾	910519	2 (1 ♀ 1 ♂)	つかい行動	集落内の駐車場	300 30	竹田 伸一
②	"	910526	4 (1 ♀ 3 ♂)	巣材運び, 別々に	"	" "	中村 正博
③	石・吉野谷村木滑	840502	3 (1 ♀ 2 ♂)	さえずり	庁舎駐車場の独立木	300 350	上馬 康生
④	"	840503	1 (♂)	さえずり	"	" "	"
⑤	"	870603	2 (1 ♀ 1 ♂)	採餌	"	" "	"
⑥	" 中宮温泉	910605	1 (♂)	さえずり	河川敷の木	600 10	林 哲
⑦	"	910608	1 (♀)	休息	道路横の電柱	" 20	"
8	石・尾口村一里野	900710	4 (1 ♀ 1 ♂ 2 j)	採餌, 同一行動	芝生の広場	550 400	橘 映州
⑨	石・白峰村桑島	9104中旬	1 (♂)	採餌	物産館のベランダ	470 30	山口 一男
⑩	"	9104中旬	1 (♀)	採餌	"	" "	"
⑪	"	910509	2 (1 ♀ 1 ♂)	さえずり, 別々に	"	" "	上馬 康生
⑫	"	9106月上旬	2 (♂)	採餌	"	" "	山口 一男
⑬	"	910604	4 (1 ♀ 1 ♂ 2 j)	巣材運び	物産館の駐車場と電線	" 10	上馬・山口
⑭	岐・白川村大窪	810614	1 (♂)	休息	落葉広葉樹林	740 100	田代 憲次
⑮	" 野谷	770612	2 (♂)	さえずり, 別々に	草地の独立木	580 10	"
⑯	"	780623	1 (♂)	さえずり	"	" "	"
⑰	"	820628	1 (♂)	休息	"	" "	"
18	" 木谷	890715	58 (♀ ♂ j)	採餌	スキー場の草地	630 400	"
⑱	" 平瀬	830429	6 (2 ♀ 4 ♂)	休息, 別々に	集落内の電線	600 100	"
⑳	"	830606	1 (♂)	休息	"	" "	"
㉑	" 大白川野営場	760613	4 (♂)	木の穴に出入り	ブナ林	1310 150	"
㉒	" 大白川ダム	740601	1 (♂)	木の穴に出入り	ダム湖内の枯木	1220 0	"
㉓	" 御母衣ダム	820712	1 (♂)	休息	堰堤の石の上	800 10	"
24	岐・荘川村寺河戸	901023	39 (♀ ♂)	採餌, 休息	刈田と電線	880 10	"
25	岐・高鷺村蛭ヶ野	731104	1 (♂)	休息	湿原の草地	860 50	"
26	岐・白鳥町白鳥	830430	90 (♀ ♂)	水のみ, 水浴	石と砂の河原	360 0	"
27	"	831029	50 (♀ ♂)	水のみ, 水浴	"	" "	"
28	"	830430	45 (♀ ♂)	採餌, 休息	水田 (田打ち後) と庭木	370 10	"
29	"	870502	21 (♀ ♂)	採餌, さえずり	"	" "	"
30	"	880430	18 (♀ ♂)	採餌, さえずり	"	" "	"
31	"	901101	15 (♀ ♂)	採餌	刈田と電線	360 10	"
32	"	911024	151 (♀ ♂)	採餌	"	" "	"
33	" 恩地	870424	54 (♀ ♂)	採餌	刈田	410 15	"
34	" 那留	850503	200 (♀ ♂)	採餌	刈田と畑	450 400	"
35	" 大島	911013	256 (♀ ♂)	採餌	刈田と電線	330 20	"

調査結果

収集できた白山周辺でのニューナイスズメの記録は表および図のとおりである。この中で表の番号を丸数字で示したのが繁殖に関係すると考えられる記録である。繁殖に関する記録について、その場所の環境について述べる。

1. 巣の判明している場所

白峰村桑島 手取川をせき止めて造った手取川ダムのダム湖の最上流部にあたり、標高470mのところ幅約200mを隔てて両岸に集落がある。左岸は交通量の比較的多い国道157号線沿いに世帯数33の集落があり、巣の見つかった右岸には2つのホテル、物産館と世帯数44の集落がある。両集落とも、1979年に完成した手取川ダム建設にともない、移住して新しくできた集落である。集落の後方はミズナラ、コナラ等の落葉広葉樹林やスギ植林地となっており、標高が高くなるとブナ林となり白山の高山帯へと続いている。巣は集落のはずれのダム湖に面した位置に立っている、道路標識の鉄製のポールの中にあつた。なおこれは今までに確認されたニューナイスズメの繁殖地としては、日本で一番西限に位置する。

白川村大白川ダム 庄川の支流大白川の上流にあたる白山の中腹の標高1240mのところ、谷をせき止めて造られた大白川ダムがある。ダムは1963年に完成したものであり、湖岸にダム管理事務所と季節利用（6月中旬～10月下旬）の山小屋2棟および休憩舎1棟があり、低木林や草地となって比較的開けている。背後はブナ原生林である。巣は、ダム湖内の岸に近いところに立っている枯木のキツツキの開けた穴である。

白川村大白川野営場 前記の大白川ダムの巣の位置から1.2km離れたところの、緩やかな斜面に広がるブナ林に野営場がある。ブナ、トチノキ、ミズナラなどの高木よりなる林は全体的には原生状態に近く、林下の一部にテントサイトや炊事舎、歩道などが設けられている。野営場の利用者は7～8月に集中し年間2870人（1991年）である。巣は野営場のミズナラの樹洞に見つかっている。

発見したのはダムが1974年、野営場が1976年と共に15年以上前で、伊藤他（1972）も場所の記録の詳細がないものの、大白川ダム付近の同じ頃の記録であり、現在も同じ場所で繁殖しているかどうかの確認はできていない。

2. その他の繁殖の可能性の高い場所

河内村内尾 直海谷川の谷間の標高300mのところであり、ペンション等10軒と民家11戸より成る集落である。民家以外の建物の多くは、集落の背後の山に1986年にスキー場が開設されてからできたものであり、周辺の植生はコナラ、ケヤキ等の落葉広葉樹林とスギ植林地である。集落の中で巣材運びが観察されており、繁殖している可能性は高い。

吉野谷村木滑 手取川本流の右岸の平地に戸数約20の集落と水田や畑があり、その背後の山の斜面の標高300mの位置にある石川県白山自然保護センターの庁舎の、駐車場の立木で見つかっている。植生はクリ、コナラ等の落葉広葉樹林とスギ植林地である。1984年5月上旬と1987年の6月上旬に雌雄とも見つかっている。

吉野谷村中宮温泉 尾添川上流蛇谷のV字谷の谷間にあり、旅館等6軒と展示館（1973年開館）などがある。また白山スーパー林道の料金所があり、観光目的の車の通行量が多い。植生はミズナラ・ブナ等の落葉広葉樹林が多く、アザミ・ススキなどよりなる高茎草原がある。標高600mの展示館横の川原の木や電柱に見つかり、6月上旬に雌雄1羽づつ出現しており付近での繁殖が考えられる。

白川村野谷 荒谷川が鳩谷ダムの湖に注ぐ地点の標高570mの川原で、湖岸を走る国道と湖の間にあ

る草地の中に生える広葉樹で、1977年、1978年、1982年の6月中下旬に雄のさえずりを観察している。周辺の山はミズナラ・トチノキ等の落葉広葉樹林とスギ・カラマツ等の植林地である。なお、ダムの完成は1956年である。

白川村大窪 野谷の北方約2kmのところで、庄川に注ぐ馬狩谷の上流の標高740mの位置で、6月中旬に観察している。幅のせまい谷の中に池があり、ブナ・ミズナラ・シラカバ等の落葉広葉樹林で、林下は夏期に野営場となる。1981年の発見当時は、約500m離れたところに住家1戸を含む数棟の建物と水田、畑等があった。

白川村平瀬 庄川に沿って走る国道156号線沿いで、標高600mのところに世帯数137の集落があり、その中の電線に止まっているのを4月下旬と6月上旬に観察している。集落周辺は、川原や水田、畑などがあり比較的開けた環境で、背後はブナ・ミズナラなどを主とする落葉広葉樹林となっている。

白川村御母衣ダム 庄川をせき止めて造られ、1961年完成したロックフィル式の御母衣ダムの、標高800mにある堰堤の岩の上に止まっているのを7月中旬に観察している。湖は堰堤のところで幅が約500mあって、両岸はブナ・ミズナラなどを主とする落葉広葉樹林となっている。

考 察

以上繁殖地及びその可能性の高い場所10か所は、ほとんどがその地域の主要河川またはそれをせき止めたダム湖の近くに位置しており、距離350mの1か所を除く他は、0~150m(平均49m)と水域のすぐ近くであることがわかる。標高は石川県側は300m~600m(平均418m)の範囲にあり、岐阜県側は大白川(1220m, 1310m)以外は580m~800m(平均680m)に位置している。大白川野営場を除くいずれも開けた環境である。集落内が3か所、庁舎等の近くが5か所で、人間生活との関わりの深い場所の近くで見ついているものが多い。周辺の植生は落葉広葉樹林が主となっている。

羽田(1953)は長野・新潟両県でのニューナイスズメの繁殖地の分布調査から、この鳥は村落周辺の鳥であり、繁殖分布を決定する要因は、年平均気温・根雪期間・湿度・水系・樹林及び村落の有無であるとしている。そして年平均気温10℃の等温線がこの鳥の繁殖期の分布地域と非分布地域との境界線となっているとし、Rutilans Lineと名付けることを提唱した。前記のように年平均気温は白峰11.6℃、鳩ヶ谷10.5℃であり、この値をもとに標高から他の繁殖地及びその可能性のある場所の年平均気温を推定すると、岐阜県側の6か所はほぼ10℃以下であるが、石川県側の4か所はすべて10℃を越えており、うち3か所は11.6℃以上とかなり高い気温であり、羽田のいう分布範囲と合わないことになる。しかし、積雪日数はすべて少なくとも100日を越える長い期間に及ぶことや、水域や人間生活との関わりの深い場所であること、付近に林があることなど、他の条件はほぼ満たしている。次に、ここに記録できた繁殖地及びその可能性の高い場所は、岐阜県側の3か所を除くと、いずれも近年に新しく施設が建てられたところであり、そこでは近年になってから新しく繁殖分布するようになった可能性がある。なお、7月に親鳥と共に幼鳥が観察されている記録が2例あるが(表のNo.8, 18)、その場所はここで述べた場所のいくつか隣接しており、仮にこれらが別の場所から移動してきたのではなく、その付近で繁殖したものと仮定した場合も、水域からの距離が少しある他は、前記と同じ条件の生息環境である。

ニューナイスズメについては、白山周辺では岐阜県側を除くと、今まであまり注目して観察されていない。富山県の城端町では1968年4月22日に雌雄の記録があり、求愛ディスプレイが観察されており(富山県自然保護課1977)、付近での繁殖の可能性はある。そして前記のような繁殖地の条件に合う場所は、富山・石川・福井の各県内にもまだ多くあるので、今後新たに発見されるものと考えられる。

また、確実に継続して繁殖が確認できているところもほとんどなく、この地域での繁殖が毎年のことかどうか、今後の調査が待たれる。

文 献

- 岐阜地方気象台 (1981, 1988-1990) 岐阜県気象月報 (第21, 28-30巻) 第1-12号。
岐阜地方気象台 (1982-1987) 岐阜県気象年報, 日本気象協会岐阜支部
羽田健三 (1953) 信越国境に蕃殖分布するニューナイスズメの一考察—ルティランスラインの提唱—, 信州大学教育学部
研究論集第3号158-175。
羽田健三・熊谷聖秀 (1972) ニュウナイスズメの繁殖期の生活について, 志賀自然教育研究施設研究業績第11号, 19-39。
石川県環境部自然保護課 (1990) 石川の動植物, 123p
伊藤良昭・山下丈夫・丹羽宏 (1972) 白山地域(4)鳥類, 自然環境保全地域候補地学術調査報告書, 岐阜県
金沢地方気象台 (1981-1990) 石川県気象年報, 日本気象協会北陸センター
熊野正雄・木村久吉 (1970) 白山の鳥類, 白山の自然231-246, 石川県
日本野鳥の会 (1980) 第2回自然環境保全基礎調査動物分布調査報告書(鳥類) 全国版鳥類繁殖地図調査1978
富山県自然保護課 (1977) とやまの野生鳥獣 147p
上馬康生 (1991) ニュウナイスズメの繁殖, はくさん第19巻第2号, 8-9。
山岸恒二 (1991) 白峰村の気候要素の特徴, 白峰村史第3巻, 87-100, 白峰村役場

Summary

In the summer of 1991 Cinnamon Sparrow (*Passer rutilans*) bred at Shiramine-mura in Ishikawa Prefecture. This was the first observation of breeding of this bird in Ishikawa Prefecture and the most western breeding place in Japan. Availing of this opportunity we accumulate the data of this bird around Mt. Hakusan and made clear the distinction of the habitat in the breeding season. Cinnamon Sparrow inhabits near the place of human activities in the mountain areas where there are lakes or rivers and deciduous broadleaved forests.